



るうてる



2022年
4月
No.892

■発行所 ■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1
電話 03-3260-8631

■ウェブサイト ■ <https://jelc.or.jp/>
■E-mail ■ jelc@jelc.or.jp

■発行人 ■ 李 明生 koho@jelc.or.jp
■印刷人 ■ 精文堂印刷株式会社
■定 価 ■ 1部 40円 (郵税を含む)
■振替口座 ■ 00190-7-71734

説教 「イースターおめでとう」

日本福音ルーテル小倉教会・直方教会 牧師 森下真帆



「あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ。」

ルカによる福音書24章6節 a

イースターおめでとう
ごさいます。この朝、イエス様は死からよみがえられました。私たちの罪のため
に苦しみを負われ、十字架で死なれたイエス様は、父なる神様によって高くあげられ復活して永遠の命を生きておられます。イエス様が救いのみわざを成し遂げてくださったことを記念するイースターの礼拝は、教会の一年の中で最も大きな喜びの時です。

も、どこかでイエス様の死を受け入れて、しきたり通りの葬りをするために現実的に行動しています。しかし婦人たちが目にしたのは空の墓でした。さらに彼女たちはみ使いからイエス様の復活を知らされます。「あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ。まだガリラヤにおられたころ、お話しになったことを思い出さない。」と言われた婦人たちは、イエス様が確かに「わたしは死んで復活する」と言われていたことを思い出したのです。

そうして婦人たちはイエスの復活を確信します。彼女たちは墓から帰って、弟子たちとほかの人皆に二部始終を知らせました。

しかし報告を受けた弟子たちは彼女たちを信じません。はじめ婦人たちがそうであったように、弟子たちもイエス様があらかじめ言われていたことを理解していません。イエス様が「わたしは死んで復活する」と言われていたにもかかわらず、死は終わりであつて、復活などたわ言だと思っていました。

これまで熱心にイエス様に従ってきた人たちがあつても、イエス様が死んでしまつてさすがにあきらめムードといったところでしょうか。私たちがそこにいても、多分同じような反応をしたと思ひます。人間の力ではどうにもならないことがあると受け入れて、現実的に行動しなければ、この世の中を生き抜いていくことはできないからです。

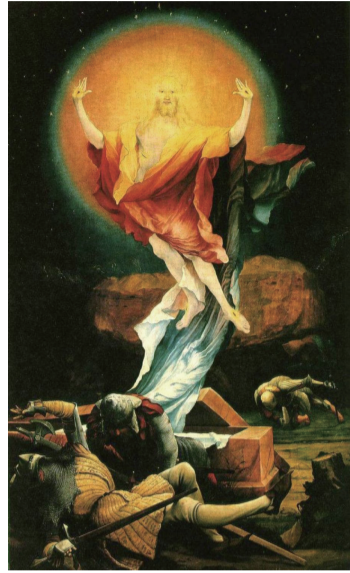
私たちは生きていくうえで色々なことをあきらめ受け入れていきます。年を取ること、病気になること、人との別れ、どれもしんどいことですが、どこかで仕方ないと割り切つて、前に進んでいるのです。新型コロナウイルス感染症が流行つて今まで通りの生活が送れなくなつても、なんとかその中で折り合いをつけて、今できることを探して生きています。人間の力ではどうにもならないことがあると感していることです。

なかでも死はその最たるものです。どんなに大切な人がいたとしても、みんないずれ死にます。死んでしまつたら二度と地上で会うことはできません。別れの悲しみは大きく深いものですが、だからといってどうしようもないというのを私たちは心

のどこかで知っています。この世の中に絶対はなく、永遠に続くものもありません。しかしイエス様の復活は、神様の約束だけは絶対であり永遠であるということを私たちに告げています。神様の約束通り、イエス様は死からよみがえられ、私たちを救つて、私たちが永遠の命へと招き入れてくださいました。死でさえも私たちからイエス様を奪うことはできません。イエス様の愛だけは私たちがあきらめる必要のない二つのものだからです。

この復活の朝、死さえも超えて、イエス様は私たちのところに戻つてきてくださいました。イエス様の愛から私たちが引き離すものは何もありません。このことだけは永遠に変わらない真理、決して取り去られることのない喜びです。イースターおめでとう。ごさいます。主の復活の喜びを共に分かち合いたいと思ひます。

M グリコ・ネヴァルト作「復活」(1511-1515年) コルマール・ウンターテンリンデン美術館所蔵



②⑤「変わらないもの」
伊藤早奈



「天は神の栄光を物語り
大空は御手の業を示す。」
(詩編19:2)

「あつちにもあるよ、ああそこにも。あの赤く光つて動いているのは飛行機かな。」
普段は別に気にしてないのに入院すると何だか空を見てしまいます。何度か入院が一緒だった友達と夕食後待ち合わせして部屋を抜け出し唯一外の空気が吸える病院内の渡り廊下へ行きま

す。暗くなり始めた渡り廊下は人影もなく静かでした。そこで渡り廊下の手すりを両手でぎゅつと握つて立ち上がり2人で毎日のように空を見ていました。そんな2人には

都会の夜の空に少し遠慮がちに輝いている数少ない星を見るのが楽しみでしたし何よりも立つて上を向けるなんてこの時にしかできないことでした。星は変わらずそこにいます。私たちが見える世界では変わりません。変わるのを見ている私たちかもしれない。

「変化は恐ろしいことでも悲しいことでもないんだよ。変化することは私たちに当たり前のことなりのさ。昔読んだ本の中に書いてあつたこのような台詞を思い出しました。成長であつたり気づきであつたり私たちが歓迎できる変化もあれば病気の進行や老化のように受け入れることを拒んだり受け入れることに時間がかかることもありま

す。でもそこには必ず変わらないイエス様が共におられます。あなたは変化する存在ですが変わらないイエス様があなたと

いつも一緒です。

ルーテル世界連盟からのウクライナ人道支援の呼びかけ

ルーテル世界連盟から、ウクライナ人道支援への協力が呼びかけられています。詳細は下記のルーテル世界連盟サイト(英語)をご覧ください。

<https://www.lutheranworld.org/news/restore-peace-ukraine>

日本福音ルーテル教会では、連帯献金を通して支援をいたします。(一次締切5月末日)

連帯献金の送付先

郵便振替：00190-7-71734
口座名：「(宗)日本福音ルーテル教会」
「ウクライナ人道支援献金」とご明記ください。



THE LUTHERAN WORLD FEDERATION



ルーテル連帯献金



議長室から 大柴謙治

「聖なるもの」との出会いとおのき

に美学の集中講義で今道友信先生から学んだことでした。確かに道端に咲く花の美と出会うためにはそれに気づく感性が求められる。でなければ素通りしてしまう。逆に言えば、自らの感性を研ぎ澄ますことができれば、どこにおいても真・善・美という普遍的な価値に出

「これを見たシモン・ペトロは、イエスの足もとにひれ伏して、『主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです』と言った。』（ルカ5:8）

「目の前に美しい花があつてもそれを美しいと感じる心が私になければ、その花と出会うことはできない。これは学生時代

会うことができるということになる。そのためには「ホンモノとの出会い」が必要となります。それはハッと思わず息を飲むような体験、深い感動を内に呼び覚まされるような体験です。ゲーテはファウストに「時よ、止まれ。お前はそ

のまま美しい」と言わせました。確かにそのような至高体験は「今ここに・私は・生きています」という鮮烈な実感を与えてくれます。山頂での御来光澄み切った紺碧の空、たゆたう白雲、陽光にきらめく川面、自由に飛翔する鳥たち、夜空の満天の星、突然の虹の出現、等々

「しかしお言葉ですから」と網を打ち、思わぬ大漁に接した。ペトロはイエスの前にひれ伏します。「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです。彼はそこで聖なるお方と出会うて震撼させられたからです。私たちも同じです。強い畏怖の念に打たれると共に自分はその前に立つ資格がない、相応しくないと恥と怖れに満たされる。主日礼拝の中に『告白』（罪と信仰）があるのもむべなるかなです。コインの画面のようにそれらは表裏一体、不即不離の関係にあるのでしよう。

復活の主と出会った弟子たちも同じでした。彼らは素直にはイエスとの再会を喜ばなかつたはず。主を見捨てる自分は逃げたことではないか、自分が影のようによみがえってきたことではないか。自分

3月2日、四旬節の初日にあたる灰の水曜日にロシアのウクライナにロシアの戦闘機、戦車、軍隊の襲撃を受けたウクライナ東部国境地域に住む牧師や信徒たちも参加しました。礼拝はルーテル世界連盟（LWF）のほか、改革派、メソジスト、メノナイト、聖公会代表者らの共同開催で催されました。

冒頭LWF事務局長アンネ・ブルクハルト師は、「二度と戻ってはならない時代へと世界を突き返してしまつた人によるひねくれた政治」を非難しました。「灰のどろりとしたウクライナを覆っています。『あなたの兄弟はどこにいるのか、カイン？』、神は人類にむけて責任を求めています。この叫び声を暴挙の責任者の心に向けて呼

びかけたいのです。」80カ国から3000人以上が礼拝に連なつて各大陸から平和の祈りがささげられました。世界改革派教会共同体（WCR）の事務局長ハンス・レッシング師がミカ書の預言「彼らは剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする」を取り上げ、このみことは今日まで3000年以上平和を作る人たちに感化を与え続け、すべての教会はこの作業のために召されていると述べました。

2014年から紛争下にあるロシアとの国境に位置する町ルハンスクのメソジスト教会牧師アレクサンダー・シェフチェンコ師が証しをして、ロシアとウクライナの平和と政治指導者の賢明な解決を祈り求めました。包囲された都市ハリコフ近郊に位置するウクライナ・ドイツルーテル教会からパブロ・シュヴァルツ監督は公正な平和を祈り求め、そのためには侵略者と犠牲者の名前を挙げることもプロセスのひとつだと語りました。

首都キエフにあるウクライナ正教会モスクワ主教座のニコラ・ダニレヴィッチ師は、連日80

「教会讃美歌 増補」解説

②創作讃美歌解説②

石原祐子
(賀茂川教会)

増補37番

「悲しみのなかで」

*祈ることもできない日に

「あなたはわたしのもの。わたしはあなたの名を呼ぶ。』（イザヤ43:1）

「見失つた二匹を見つけてうか。』（ルカ15:4）

「イエスよ、あなたの御国



においてになるとときには、わたしを思い出してください。』（ルカ23:42）

四旬節に与えられた歌。わたしたちの中に痛みがあります。わたしたちの中に悲しみがあります。神さまがみえない、神さまを呼べない。神さまがおられるのならどうしてこんなことが起こるのかと思う。苦しくて御名を呼ぶことさえできない日があります。

そんなときにも、主がわたしたちの名を呼び、

増補39番

「なつかしいあの場合へ」

*子どもたちと、子ども

だつた人たちのために

「あなたの祭壇に、鳥は住みかを作りつばめは巢をかけて、雛を

置いています。万軍の主、わたしの王、わたしの神よ。いかに幸いなことでしょう。あなたの家に住むことができるなら、主の家に帰る場所です。まして、あなたを賛美することができるときはなれる。』（詩編84:4-5）

教会学校の子どもたちの堅信式が行われ、感謝をささげるなかで与えられた、詩編84の歌。

久しぶりに礼拝に出席することがゆるされた日、目を閉じて、皆が歌う賛美歌に耳を傾けました。

「主の家にいこう、と人々が言ったとき、わたしはうれしかった。』（詩編122:1）

世界の教会の声

浅野直樹 Sr.
(世界宣教師市ヶ谷教会・スミ教会牧師)

「ウクライナを覆う灰のどろり」

3月2日、四旬節の初日にあたる灰の水曜日にロシアのウクライナにロシアの戦闘機、戦車、軍隊の襲撃を受けたウクライナ東部国境地域に住む牧師や信徒たちも参加しました。礼拝はルーテル世界連盟（LWF）のほか、改革派、メソジスト、メノナイト、聖公会代表者らの共同開催で催されました。

冒頭LWF事務局長アンネ・ブルクハルト師は、「二度と戻ってはならない時代へと世界を突き返してしまつた人によるひねくれた政治」を非難しました。「灰のどろりとしたウクライナを覆っています。『あなたの兄弟はどこにいるのか、カイン？』、神は人類にむけて責任を求めています。この叫び声を暴挙の責任者の心に向けて呼

びかけたいのです。」80カ国から3000人以上が礼拝に連なつて各大陸から平和の祈りがささげられました。世界改革派教会共同体（WCR）の事務局長ハンス・レッシング師がミカ書の預言「彼らは剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする」を取り上げ、このみことは今日まで3000年以上平和を作る人たちに感化を与え続け、すべての教会はこの作業のために召されていると述べました。

2014年から紛争下にあるロシアとの国境に位置する町ルハンスクのメソジスト教会牧師アレクサンダー・シェフチェンコ師が証しをして、ロシアとウクライナの平和と政治指導者の賢明な解決を祈り求めました。包囲された都市ハリコフ近郊に位置するウクライナ・ドイツルーテル教会からパブロ・シュヴァルツ監督は公正な平和を祈り求め、そのためには侵略者と犠牲者の名前を挙げることもプロセスのひとつだと語りました。

首都キエフにあるウクライナ正教会モスクワ主教座のニコラ・ダニレヴィッチ師は、連日80



※ウクライナの平和を求める灰の水曜日の祈りについては下記サイトで紹介されています。
<https://www.lutheranworld.org/news/pall-ashes-covers-ukraine-christians-join-prayer-peace>

第28期第16回 常議員会報告

事務局長 滝田浩之
2月21～22日にオンライン会議で開催された標記の件について、ご報告申し上げます。

(1)第29・30回定期総会の件

5月3～5日(火～木)に予定されています定期総会につきましては、3月28日に開催する臨時常議員会において開催の是非を最終確認することとなりました。開催についてはまだ延防止等重点措置、緊急事態宣言が発令されていることとはもちろんですが、参加者の多くが高齢であること、また教職についても社会福祉法人、学校法人、幼稚園・保育園との関りのある者が多いことを加味しつつ判断することを確認しました。

顧問弁護士からの助言として、定期総会は憲法・規則に開催することが明記されており、すでに2年の延期を行っていることから最大限、開催することが前提となること。しかし最終的には総合的な判断をもとに再度の延期を常議員会が判断することができるかと、

すでに常議員会で承認した憲法規則改正委員会の答申を妥当とする旨の確認を頂いているところ。なお常議員会として、総会選出常議員(議長等)については2022年5月末をもって2期4年の任期を終了しているとの理解を確認しました。

(2)市ヶ谷耐震補強工事について

財務委員会から市ヶ谷事業所をテナントとして利用されている団体より、2022年度内に可能な限り耐震補強工事の実施を強く要望されていること。また工事が延期されて以降、テナントを利用する職員の意識が高まったこともあり、事業所内の設備について特に感染症への対策を求められていることが報告されました。これを受けて、財務委員会としては一旦は工事費については1億5000万円ほどの減額を進めてきましたが、新たな要望を踏まえて工事費を4000万円増額した6億7000万円とする市ヶ谷耐震工事業計画を常議員会に提案し、これが承認されました。

常議員会は、この件については定期総会が延期された場合、4月25～26日に予定している常議員会において宗教法人法第26条を適用し検討することを確認しました。検討にあたっては、耐震工事の更なる延期によるテナントとの契約解消に伴う財務的な課題、日本福音ルーテル教会所有の建物における大地震発生に伴う社会的な責任等が課題になることを確認しているところです。

また耐震補強工事を実施するという点については、すでに2018年の第28回定期総会において承認されていることも検討を行う上で重要な議決であることを分かち合いました。

(3)総会提案の議案について

総会では、「第7次総合方策」、「アジア伝道について」、「ハラスメント常設委員の件」、「神学教育に関する協約の件」、「市ヶ谷耐震補強工事の件」、「決算・予算」について提案することを常議員会は承認しました。総会が延期された場合は、4月25～26日に予定する常議員会において議案の扱いについて検討されることとなります。総会が開催される場合は議案

として提案されることとなります。ご審議をよろしくお願い申し上げます。

(4)「任用制度見直し」の件

東教区常議員会から提案された、「任用制度見直し」についての提言を受けて常議員会では、これを教職を取り巻く働き方への全般的な問題提起と捉えた上で、憲法規則改正委員会に扱い方も含めて付託することを承認しました。今後、個別の状況にある教職からのヒアリング、また現行の「招聘と応諾」の考え方を確認しつつ検討が行われていくこととなります。

以上、ご報告いたします。詳しくは送付されます常議員会報告をご確認ください。



2022年度 日本福音 ルーテル教会 人事

【任用変更】
関野和寛
津田沼教会(嘱託/2021年12月1日付)
滝田浩之
小石川教会(主任・兼任)
奈良部恒平
本郷教会(主任)
三浦知夫
板橋教会(兼任)
高村敏浩
羽村教会(兼任)
浅野直樹 Jr.
八王子教会(兼任)
坂本千歳
八王子教会(嘱託)

白髭義
二日市教会
黄大衛
長崎教会
濱田道明
合志教会

【退職】
(2021年7月31日付)
太田二彦(定年引退)
宮川幸祐(退職)
(2022年3月31日付)
徳野昌博(定年引退)
杉本洋一(定年引退)
中村朝美(定年引退)
【東海教区】
後藤田起
名古屋めぐみ(主任、知多教会(兼任))
徳弘浩隆
高蔵寺教会(主任、復活教会(兼任))
後藤直紀
大垣教会(主任、岐阜教会(兼任))

○ルーテル学院大学・日本ルーテル神学校人事
立山忠浩
校長(再任/2022年4月1日～2026年3月31日・都南教会と兼任)

【九州教区】
小泉嗣
熊本教会(主任、玉名教会(兼任))
【西教区】
竹田大地
天王寺教会(主任、西宮教会(協力牧師))
水原一郎
西宮教会(兼任)
神崎伸
神戸教会(主任、神戸東教会(兼任))
【J3プログラム】
Mijuan Haiju
2022年5月末帰国
【新任】
Laura Slezak
九州学院
Volamala Ranavoson
本郷学生センター
Jessica Hill

2022年度教会手帳住所録訂正のお願い
2022年度教会手帳住所録19頁(「引退」のV・ソベリ先生の住所が変更となりました。新しい住所は以下の通りです。
V・ソベリ
(Virpi Soveri)
Hepomäenkatu
4 B 2
80140 Joensuu
FINLAND
(電話番号・メールアドレスに変更はありません。)

【北海道特別教区】
該当なし
【東教区】
高村敏浩
仙台教会(兼任、鶴ヶ谷教会(兼任)、2021年8月1日～2022年3月31日)
松岡俊二郎
仙台教会(兼任、鶴ヶ谷教会(兼任))
小澤周平
千葉教会(主任)
中島康文
津田沼教会(兼任)

